

実践のまとめ（小学校6年 算数科）

授業公開日 令和7年10月31日第5校時
指導者 阿賀野市立安田小学校
教諭 加藤 光

1 研究テーマ

数学的な表現を用いた対話的な学び合いを通して、考えの深まりを実感する児童の育成

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

学習指導要領解説算数編(平成29年告示)では、算数科の目標の1つに「数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う」ことが挙げられている。また、思考力・判断力・表現力等を育成するため「具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったり、学び合ったり、高め合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れていくこと。」と示されている。日頃の授業の中で、自分の考えをまとめる場面や伝える場面で問題にあった数学的な表現を選択する場面を設け、活用する機会をつくっていく。また、田村(2018)によると深い学びの実現には「対話や協働などによる豊かな『学び合い』を展開したり、学習内容の確認にとどまらない丁寧な授業の『振り返り』を行ったりすることが必要」とされている。これらのことから、数学的な表現による対話的な学び合いに加え、学びの過程や結果を振り返り、見つめ直すことで考えの深まりを実感する児童が育成できると考え、本テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

- ① 「数学的な表現を用いた対話的な学び合い」を実現するために
 - ・ 話し合いの目的や方法を児童が意識して対話的な学び合いが行えるようにする。そのために、話し合いの必要感が生まれる状況を設定したり、対話意欲が高まる働き掛けを行ったりする。
 - ・ 自分の考えを上手に伝えるための説明方法(図、言葉、式、表、グラフ)を提示し、算数の学習全体を通して活用し、その有用性を実感させる。説明する際にどの説明方法が使えるかを問いかかけたり、説明モデルを見てどの説明方法を使っているかを予想させたりすることで、数学的な表現を用いた説明ができるように促す。
- ② 「考えの深まりを実感する児童」を実現するために
 - ・ 本時の学びを振り返るための観点「ほたるスターで学習をふり返ろう」を提示し、自己の学習を俯瞰的に捉えて、学びを自覚化できるようにする。
 - ・ これまでの学習との相違点や共通点を問いかけてまとめにつなげていくことで振り返りの際に現在と過去の学習内容を関連付けて一般化したり、自己の変容を自覚化したりできるようにする。

(3) 研究テーマに関わる評価

- ① 児童の話し合い活動の様子や話し合いの内容を省察する。数学的な表現を用いて自分の考えを相手に伝えている姿、相手の説明の正誤を判断したり、付加・修正を行ったりする姿を「数学的な表現を用いた対話的な学び合い」を行う姿を学級全体の80%を目指す。
- ② 児童の振り返りの記述を省察する。田村(2018)が本来の振り返りの意味として定めた「学習内容の理解」「現在と過去の学習内容の関連付けと一般化」「自己変容の自覚」のうち2つ以上が書かれている姿を考えの深まりを実感する児童の姿とし、学級全体の80%以上を目指す。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

比とその利用 割合の表し方と利用のしかたを考えよう(みんなと学ぶ小学校算数6年 学校図書)

(2) 単元の目標

- ・ 比の意味や表し方を理解し、比を用いて、数量の関係を表したり、等しい比をつくったりするこ

とができる。

- ・ 図を用いて数量関係を整理しながら、比やその性質を活用した問題解決過程を筋道立てて説明する力を養う。
- ・ 比のよさに気付き、図や式などを用いて数量の関係を表したり、比や割合の考え方を日常生活に生かしたりする態度を養う。

(3) 単元の評価規準

- ・ 比の意味と表し方を理解し、比を用いて、数量の関係をより簡潔に表したり、比の性質を活用して、等しい比を多様につくったりすることができる。
- ・ 場面を図に表して数量関係を整理しながら、比やその性質を活用した問題解決過程を筋道立てて説明している。
- ・ 比のよさに気付き、日常生活で比が用いられている場面を見いだしたり、問題の解決に比を活用したりしようとしている。

(4) 単元と児童

① 単元について

本単元では、比の意味や表し方を理解し、それをもとに数量の関係を等しい比で表したり、等しい比をつくったり、比で表された問題を解決したりすることを通して、割合の見方・考え方を深めることがねらいである。また、日常の事象にも生かそうとする態度を育むことも大切である。比は、2量の関係のどちらか一方を基準にすることなく、対等な関係において、簡単な整数の組を用いて表すことができるというよさがある。それを日常の事象から探したり、家庭科や理科といった他教科の学びと関連付けたりすることで、割合の見方・考え方を豊かにすることができるといえる。

② 児童の実態（男子8人、女子8人、計16人）

6学年の算数では、学力が等質になるように2つのグループに分けて少人数指導を行っている。少人数2組の児童は学習に前向きで、問題に対して粘り強く取り組むことができるが、算数に対して苦手意識をもっている児童が多い。既習の知識や簡単な計算等を問いかける簡易な発問に対しては発言をすることができるが、説明や理由を筋道立てて説明する力が非常に弱い。これまでの授業では課題解決の際に、個人思考で自分の考えをもつ時間を持ち、その後、個人で考える、ペアやグループで考えるなどの学習の方法を選択する自己調整学習を行ってきた。課題解決の見通しがもてていない児童は児童同士で相談をしたり、分かっている児童からやり方を教えてもらう、見通しがもてている児童は困っている児童の手助けをしたりするなど、学び合いの風土ができてきている。しかし、他者とうまく関われない、学び合いが答えを確認することに終始するといった児童も見られる。確かな理解に結び付けるためにも、折に触れて、本来の対話の目的や意味を確認しながら学習を進め、適切な姿を価値付ける働き掛けを継続している。

算数に関わる学力実態については資料2から分かるように教科の正答率、本実践領域の図形領域の正答率ともに目標値を下回っている。教科の評定で2の段階が43.8%であることから既習が定着しきれていない児童が多くいることが分かる。単元や各時間の導入では学習に関わる既習事項を振り返る機会を設けて、既習とのつながりを児童が意識できるようにしていく。

小学校5年 算数	教科の平均値			変化と関係	
		基礎	活用	単位量あたりの大きさ・比例	平均
目標値 (%)	68.4	74.1	53.9	70.0	85.0
校内 平均正答率 (%)	65.1	69.7	53.5	70.3	78.1
全国 平均正答率 (%)	68.8	74.7	53.7	67.6	
教科の評定	1	2	3	4	5
人数比 (%)	0	43.8	21.9	31.3	3.1

資料1：令和6年度実施のCRT標準学力検査算数の結果まとめ

(5) 単元構想図

<「見方・考え方」を働かせた姿>

等しい比や比の値、基準となる大きさのいくつかに着目し、二つの数量の関係を考える。

- ☑ a:bの比の値はaはbの何倍かを表したものの。
- ☑ 比は2つの量の割合を表すことができる。

比とは？

- ☑ ドレッシング全体をもとにしたときの酢とサラダ油の割合が同じになるとよい。(割合により比較)
- ☑ ドレッシングの量をそろえると比べられる。(単位量当たりの大きさによる比較)

同じ味のドレッシングはどれ？

- ☑ 数を小さくした方が割合がイメージしやすくなる。
- ☑ $12:18=2:3$ と表せる。

比を分かりやすくするには？

- ☑ 比a:bのaとbに同じ数をかけたり、わったりしてできた比もa:bと等しくなる。
- ☑ 比の値が等しいとき、2つの比は等しいという。
- ☑ 2つの比は同じ割合なので $4:12=8:24$ といえる。

同じ味のドレッシングをつくるには？

- ☑ 全体の量と部分の量で比をつくとよい。
- ☑ 3つの作戦が使える。

全体の量が分かって部分の量が分からないときはどうする？

- ☑ 比の一つ分を求めて解決できる。(比の一つ分作戦)
- ☑ 比の値を使って解決できる。(比の値作戦)
- ☑ 等しい比のきまりを使って解決できる。(等しい比作戦)
- ☑ 同じ味のコーヒー牛乳をつくるにはコーヒーと牛乳の割合が等しくなるとよい。
- ☑ 等しい比のきまりを使って解決できる。
- ☑ 木の高さと言の長さの比はいつも等しくなる。

1次(2時間)
割合の表し方としての「比」を知る

2次(4時間)
比の性質を理解する

3次(4時間)
比を活用して日常の問題を解決する

4 本時の展開(本時10/11時間)

(1) ねらい

比と全体の数量をもとに、数量の関係を図や式を使って考え、部分の数量を求めることができる。

(2) 展開の構想

<考えの深まりを実感する子どもの姿>

【考えの深まりを実感する子どもの姿】

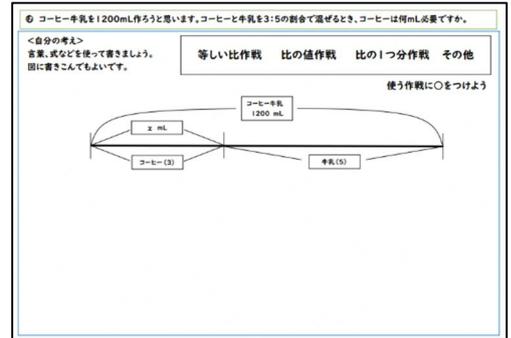
課題解決の場面において、全体の比を8とする見方によって等しい比や比の値、比の1つ分といった既習の作戦が使えることに気づき、正しい考え方に修正したり、新たな考えを付加したり、自分の考えを強化したりする姿を対話場面の児童の様子と振り返りの記述で見取る。

① 学習内容の確認	○
② 現在と過去の学習内容との関連付けと一般化	◎
③ 自己変容の自覚	○

<「数学的な表現を用いた対話的な学び合い」を実現するための方策>

- ① 「図」と「式」が一体となったワークシート（資料3）を使用する。

本時の問題を比を使って説明する際に必要な数学的な表現は「図」（線分図）と「式」である。自分の考え方を説明する際はそれぞれの数学的な表現を使って対話的な学び合いが行われるように、「図」と「式」が一体となったワークシートを使用する。対話的な学び合い場面では線分図を用いることで、全体の比である「8」に着目した解決方法の話合いが行われることを期待する。



資料2：本時のワークシート

- ② 自己調整学習段階表を用いて学習形態を自己選択させる。

自分の考えをまとめるための個人思考の時間をもったあと、自己調整学習段階表（資料4）を用いて自分の今の段階を意思表示させる。A「困っている人を助ける」、B「友達と説明をしあう」、C「友達に聞いてみる」、D「友達から教えてもらう」にあった学習形態を自分で選択（自己調整学習）して課題解決に向かえるようにする。また、自分からうまく他児と関わることができない児童は教師が仲介し、児童同士の対話をコーディネートできるようにする。



資料3：自己調整学習段階表

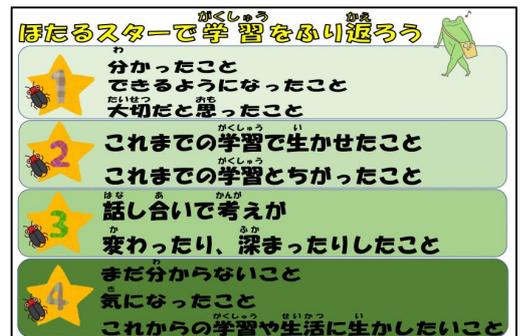
<「考えの深まりを実感する児童」を実現するための方策>

- ③ 前時との共通点と相違点を明確にする。

まとめの際は前時との共通点と相違点を問いかけ、前時で扱った「等しい比作戦」「比の値作戦」「比の一つ分作戦」の3つの作戦すべてが使えるという共通点と全体を表す比の「8」を使うという相違点を明確にしてからまとめを行うようにする。

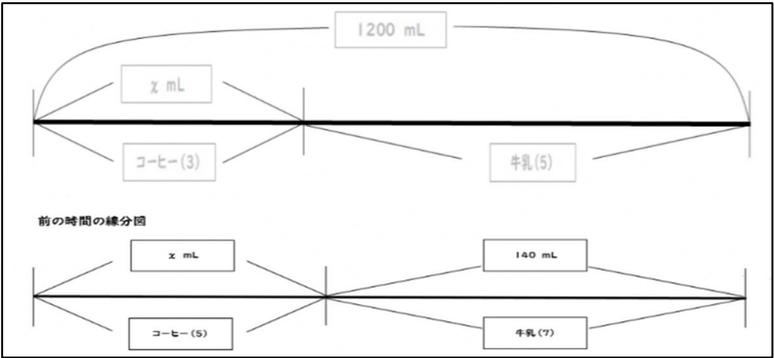
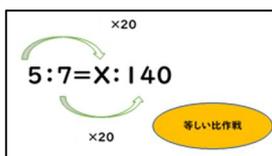
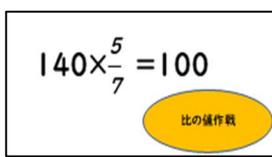
- ④ 振り返りの観点（資料5）から適切な観点を選択させ、振り返りを記述させる。

振り返りの観点「ほたるスターで学習をふり返ろう」（資料5）から、本時の学習にあった適切な観点を2つ以上選択させて、記述させる。教師から振り返りの観点を指定せず、児童に選択させることで、児童が自らの学習を俯瞰的に見直し、考えの深まりを自覚化できるようにする。



資料4：振り返りの観点

(3) 展開

時間 (分)	教師の働きかけ (T) 予想される児童の反応 (C)	支援や留意点 (・) おもな評価規準 (◆)
前時終末 の意識	C: コーヒーと牛乳の比、牛乳の量を使ってコーヒーの量を求めました。 C: 等しい比作戦、比の値作戦、比の1つ分作戦の3つの作戦で求めることができました。	
見通しを もつ段階 (10分)	T1: 前回の復習です。コーヒーの量はどうやって求めればよかったですでしょうか。 C1: 比を使えばよいです。 C2: 等しい比作戦や比の値作戦、比の1つ分作戦を使えば求められます。 T2: では、今日の問題です。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ㉞ コーヒーと牛乳を3:5の割合で混ぜます。コーヒー牛乳を1200 mL作る時、コーヒーは何mL必要ですか。 </div> T3: 分かっていることは何ですか。 C3: コーヒー牛乳を1200 mL作ることです。 C4: コーヒーと牛乳を3:5の割合で混ぜることです。 T4: 昨日のように線分図に表すことはできますか。タブレットのカードを動かして線分図をつくりましょう。 C5: コーヒー牛乳は全体を表しています。 C6: 昨日と少しちがう線分図になりました。 <div style="text-align: center;">  </div> C7: 前回は牛乳が何mL分かっていたから求められたけど、この問題では分かりません。 C8: コーヒー牛乳全体の量が分かっています。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ㉞ 全体の量が分かっているときに、部分の量を求めるにはどうすればよいか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の内容を掲示し、折に触れて振り返られるようにする。 ・タブレットでワークシート(別紙資料1)を配信する。 ◆【態】数量関係を図に表して考えようとしている。(ワークシート) ・前時との違いが分かるように前時の本時の線分図を比較して提示する。 ・前時との違いについて意見が出ない場合は近くの人と話合わせる。 ・前時の問題は「部分の量」が分かっている、本時の問題は「全体の量」が分かっていることを板書でまとめ、課題につなげていく。
課題解決 の段階 (25分)	T5: コーヒーの量を求めるにはどうしたらよいでしょうか。 C9: 前とおなじように比を使って求めればよいと思います。(等しい比作戦) C10: 比の値をかけます。(比の値作戦) <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体でどんな方法で求められそうか予想を立てさせ全体で見通しを持つ。 ・3つの作戦のどれが使えるそうかを考えさせて、追究意識を高める。

C11: 1つあたりの量を求めてそれが何個分か求めます。
(比の1つ分作戦)

$$140 \div 7 = 20$$

$$20 \times 5 = 100$$

比の1つ分作戦

- T6: 自分の考えをワークシートに書きましょう。
 C12: 全体の比「8」を使えば、等しい比作戦を使って説明できそうです。(A段階)
 C13: 比の値作戦を使って、答えは出せたけど説明は難しいな。(B段階)
 C14: 比の一つ分作戦を使ってみたけど、これでよいのか不安です。(C段階)
 C15: どのように書けばいいのかわかりません。(D段階)
 T7: 自分にあった方法で課題を解決しましょう。
 C16: 等しい比作戦を使うと、コーヒーと牛乳の比の3:5を使ってもうまく等しい比が作れません。(D段階)
 C17: コーヒーの比と牛乳の比を合わせた「8」を使うとコーヒー牛乳全体を表す比がつけられるよ。
 C18: コーヒーと牛乳全体で3:8の比をつくと等しい比の式ができそうです。

<自分の考え>
言葉、式などを使って書きましょう。図に書きこんでもよいです。

等しい比作戦
比の値作戦
比の1つ分作戦
その他

使う作戦に○をつけよう

$3:8 = X:1200$

等しい比作戦

- C19: 比の値は3:5だから3/5にすればいいのかな。(D段階)
 C20: コーヒーが3、牛乳は5だから、コーヒー牛乳全体は3+5で8になるから3:8の比の値3/8で計算すればいいです。

④ コーヒー牛乳を1200mL作ろうと思います。コーヒーと牛乳を3:5の割合で混ぜるとき、コーヒーは何mL必要ですか。

<自分の考え>
言葉、式などを使って書きましょう。図に書きこんでもよいです。

等しい比作戦
比の値作戦
比の1つ分作戦
その他

使う作戦に○をつけよう

$1200 \times \frac{3}{8} = 450$

比の値作戦

- C21: 牛乳の量がわからないから前みたいに比の1つ分の大きさがわからないな。(D段階)
 C22: コーヒー牛乳全体の量の比を8とすれば1200÷8で比の1つ分の大きさが分かります。

方策①

・タブレットにワークシートを配付する。

方策②

・自己調整学習段階表を用いて、自分の段階を意識表示し、自己調整学習を行う。

・AB段階の児童とCD段階の児童が確認できるように電子黒板で示す。

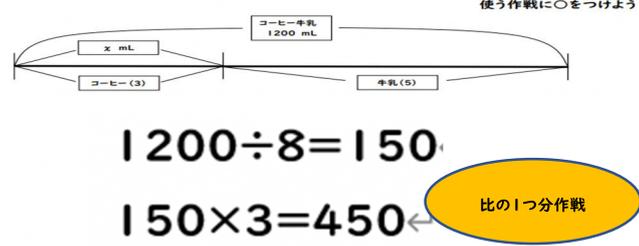
◆【思】全体の数量を比例配分する方法を、比の性質や図を用いて考えている。(観察・タブレット)

方策①

・教師が児童の進捗具合をタブレットで見取り、C19、C22、C24のような児童には全体を表す比の「8」を見出している児童とつなげていく。

・自分の考えをもてた児童をタブレットで見取り、全体に周知していく。

・個人で考えることが難しい児童は、班や他の人の意見を聞きに行くことを促す。

	<p>④ コーヒー牛乳を1200mL作ろうと思います。コーヒーと牛乳を3:5の割合で混ぜるとき、コーヒーは何mL必要ですか。</p> <p><自分の考え> 言葉、式などを使って書きましょう。 図に書きこんでもよいです。</p> <p>等しい比作戦 比の値作戦 比の1つ分作戦 その他</p> <p>使う作戦に○をつけよう</p>  <p>$1200 \div 8 = 150$</p> <p>$150 \times 3 = 450$ ← 比の1つ分作戦</p>	<p>◆「線分図」や式の一部を見て発表された考えをペアで説明している。</p>
<p>まとめ・振り返りの段階 (10分)</p>	<p>T8: では、考えを発表しましょう。 C24: 全体の前で説明をする。 C25: 発表された考え方をペアで確認し合う。</p> <p>T9: 今回の問題と前回の問題のちがいは何ですか。 C26: コーヒー牛乳全体の量の比8を使っていることです。 T10: 前回の問題と似ているところがありますか? C27: 3つの作戦を使ってコーヒーの量を求めることができました。</p> <p>③ 部分どうしの比を合わせ、全体の比「8」を作れば3つの作戦を使い部分の量を求めることができる。</p> <p>T11: 振り返りを書きましょう。 C28: 振り返りを記述する。</p> <p>【考えの深まりを実感した児童の振り返りの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までは、比の1つ分作戦でしか求められなかったけど、今日の学習で比の値作戦でも求められるようになった。 ・次は、等しい比作戦で求められるようにしたい。理由は、比の1つ分作戦と比の値作戦では求められたけど、等しい比作戦では求められなかったから。 	<p>方策③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回との相違点や共通点を問いかける。 <p>方策④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの観点を示し、2つ以上の観点で振り返ることを促す。

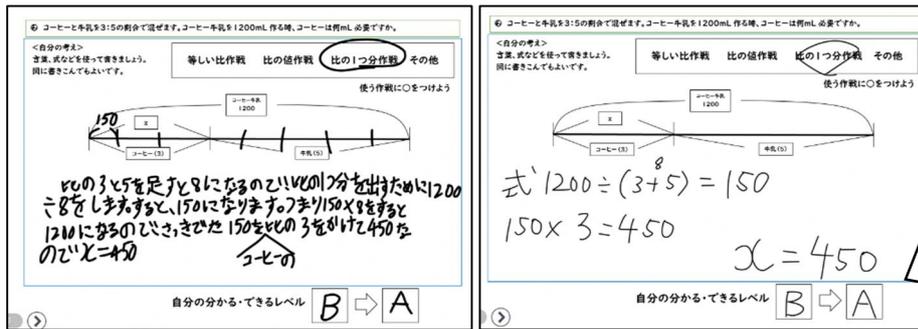
(4) 評価

- 【態】 数量関係を図に表して考えようとしている。(ワークシート)
「線分図」や式の一部を見て発表された考えをペアで説明している。
- 【思】 全体の数量を比例配分する方法を、比の性質や図を用いて考えている。(観察・ワークシート)

5 成果と課題

(1) 数学的な表現を用いた対話活動について

- ① 「図」と「式」が一体となったワークシートを使用する。
<成果>
 - ・ 数学的な表現を「図」と「式」にしぼったことが有効だった。説明を文章にして長く書いても関わり合いが生まれにくい、不完全な形で示されるからこそ「この式ってどういう意味?」「どこから8がでてくるの?」といった対話が、自然に生まれていた。



左より右の写真の方が対話が生まれていた。説明のためのツールとして使用することを意識してワークシートの書き方を指導する必要があると分かった。

資料5：児童のワークシートの記述

<課題>

- ・ 「 $3 + 5 = 8$ 」の8が線分図のどの部分を表しているのかを矢印で結び付けて示すなど、図と式を関連付けながらワークシートが書けるようになるとよりよかった。
- ・ 実践終了後に算数の学習全体を通してどのようなことを意識して対話的な学びを行っているかについてアンケート（資料6）を実施した。その結果、数学的表現を用いた対話を意識している児童は21.4%にとどまった。本授業実践では「図」と「式」が一体となったワークシートを用いることでどの児童も数学的な表現を用いた対話的な学び合いを行うことができたが、児童が自ら選択して数学的表現を用いる段階には至らなかった。今後も児童が数学的な表現を用いて学習に取り組めるように環境を整え、その価値を実感できるよう取組を継続していきたい。

「友達と話し合うときの自分の姿に一番よく当てはまるものを選びましょう。」に対する回答項目	割合
ノートやタブレットなどに書かれた考えを「見せ合い」確認した。	35.7%
ノートやタブレットなどに書かれた考えを見せ合うだけでなく、その理由も「言葉」で説明し合うようにした。	42.9%
ノートやタブレットなどに書かれた考えを見せ合うだけでなく、その理由も「言葉」「式」「図」などを使って説明し合うようにした。	21.4%

資料6：児童アンケートの結果

② 自己調整学習段階表を用いて学習形態を自己選択させる。

<成果>

- ・ 資料7のようにA段階かB段階（以下、AB段階）の児童の分布を可視化させ、リアルタイムでAB段階に児童が推移していく様子を電子黒板で示したことは学級全体で学習課題を解決しようとする意欲喚起につながった。教師が「ABレベルが1人増えた」「半分の人がABレベルになった」など、価値づけたことも対話的な学び合いに有効だった。



資料7：電子黒板で示した児童のワークシート一覧

<課題>

- ・ 「困っている人に教えに行く」という段階から「困っている人が教えを求める」姿が見られるようになるとよりよい学びの形になっていく。今回はAB段階の児童だけが青表示になっていたのので、助けを求めている児童は赤表示で示すなどの工夫も考えられる。
- ・ A段階の児童にとっての成長を実感できるように、教えた児童が分かるようになった④やSなどの新たな段階を設定してもよかった。

(2) 「考えの深まりを実感する児童」を実現するための方策について

- ③ 前時との共通点と相違点を明確にする。

<課題>

- ・ 教師の問いかけが「共通する数字は？」となっていたため、やや誘導的になってしまった。共通点を直接問うのではなく「一番大事な数字はどれ？」と問いかけることで、全体の比を表す「8」が課題解決のために明らかにすることが必要な数値であることを押さえられるとよかった。

- ④ 振り返りの観点から適切な観点を選択させ、振り返りを記述させる。

<成果>

- ・ 本時の授業では、振り返りの意味における③自己変容の自覚（振り返りの観点☆3）が8人と半数以上だった。（資料8）対話を通して分かるようになったことを中心に記述している児童が見られた。また、資料9のような2つ以上の観点で記述できた児童は13人（約86%）であった。

振り返りの意味	延べ人数
①学習内容の確認	13人
②現在と過去の学習内容の関連付けと一般化	5人
③自己変容の自覚	8人

資料8：振り返りの意味ごとの人数

振り返りの意味①と②に関わる記述	振り返りの意味①と③に関わる記述
<p>前は全体が分からなかったけど、今回は全体の量が分かっている問題だったから、新しい作戦ができると思いました。だけど、全体を表す比の8を使うことで3つの作戦どれでも計算できることが分かりました。</p>	<p>私はこの学習ではあまり分からないことが多いけど、話合いのときにAさんの説明を聞いてなるほどなと思うことが多かったのので、話合いをする前にも自分の考えをまとめたり説明したりできるようにしたいです。3つの作戦の中で最初は①（等しい比作戦）が難しいと思っていたけど話合いをしていくと分かるようになったし、今では①がいいと思います。</p>

資料9：抽出児童の振り返りの記述

<課題>

- ・ 振り返りによって考えの深まりを実感させていくためにも、記述した振り返りを今後の学習にどう生かしていくかが重要となる。
- ・ 対話の中身をより詳しく書けるようになると、児童一人一人の学びの様子がより鮮明になる。

最終板書

The boardwork is divided into several sections:

- Top Left:** Date and page reference: 10/31 p166~
- Problem Statement (①):** コーヒーと牛乳を3:5の割合で混ぜると、コーヒー牛乳を1200mL作る時、コーヒーは何mL必要ですか。
- Diagram 1 (全体):** A horizontal line representing 1200 mL. It is divided into two segments: 3 parts for coffee (コーヒー) and 5 parts for milk (牛乳). The total length is labeled 1200 and the whole is labeled 全体.
- Diagram 2 (部分):** A similar diagram showing the parts separately, labeled 部分.
- Equation (②):** $3:5 = x:1200$. The 3 and 5 are circled in green, and x is circled in blue.
- Text (③):** 全体の量が分かっているとき、コーヒーの部分は、どうやって求めるか? 3つの作戦
- Three Strategies (④):** Three small diagrams showing different methods to solve the problem:
 - Strategy 1: $3+5=8$, $3 \div 8 = x \div 1200$, $x = 450$ mL
 - Strategy 2: $3:5 \rightarrow \frac{3}{8}$, $1200 \times \frac{3}{8} = 450$ mL
 - Strategy 3: $1200 \div (3+5) = 150$, $150 \times 3 = 450$ mL
- Summary (⑤):** 部分どうしの比を合わせ、全体を表す比「8」を使うと、3つの作戦で求められる。

引用参考文献

- ・ 文部科学省『学習指導要領解説（平成二十九年告示）算数編』日本文教出版 2018年2月28日
- ・ 田村学『深い学び』東洋館出版 2018年4月13日